

宇治市
まちのリビング
イメージブック



イラスト：Chen Jinyu

2022年

目次

1. 「まちのリビング」をイメージする

もとめられる交流の機会	P.2
多様な場所とアクティビティ	P.4
中宇治地域のポテンシャル	P.6

2. 「ばしょ」をしつらえる

集会所のつかい方の幅をひろげる	P.8
空き家を有効に活用する	P.12
空き地を有効に活用する	P.16

3. 「きっかけ」をうみだす

集う：サークル活動や展示会・展覧会	P.20
食す：チャレンジショップ、料理教室	P.24
耕す：土いじりや野菜・果物づくり	P.28

4. 「つながり」をはぐくむ

様々なグループと連携する	P.32
オンラインのネットワークをつくる	P.34
プロセスを共有する	P.36

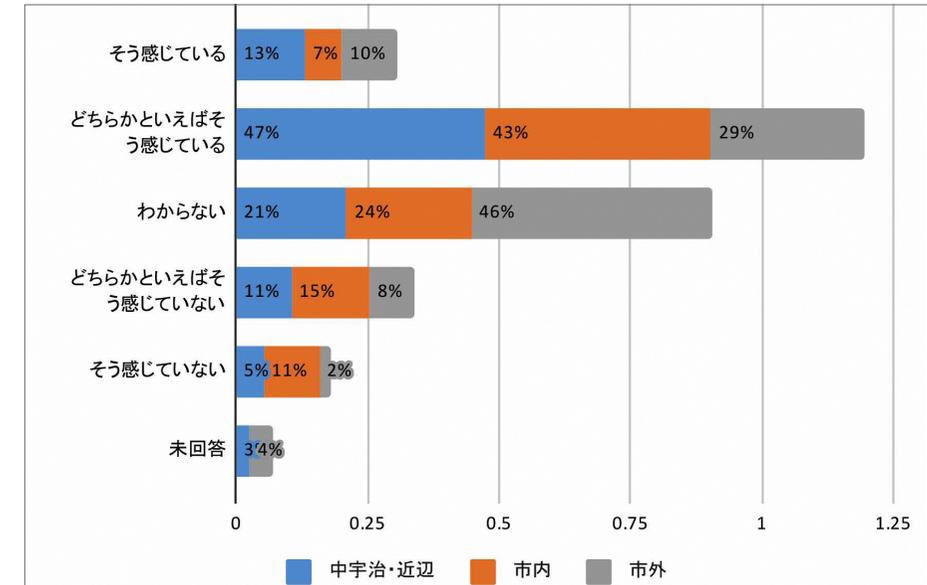
1. 「まちのリビング」をイメージする

～ もとめられる交流の機会 ～

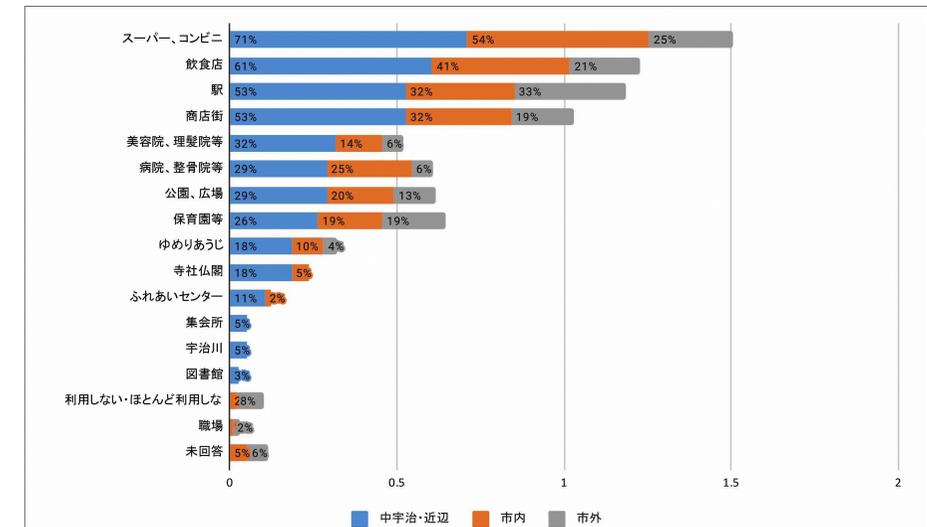
2021年度に実施したアンケート調査により、中宇治エリアの子育て環境に求める「ばしょ」、「きっかけ」、「つながり」について把握することができました。その結果、中宇治エリアの子育て環境で必要だと思うことについて、「子連れで入りやすい飲食店」や「子どもが遊べる公園・広場」等、子どもが遊べる場所と親がくつろげる場所を求める声が多い傾向にあります。また、子育てに関する情報収集は、オンライン上のコミュニティよりも、リアルに存在するコミュニティからによるものが多いのですが、行政からの情報はデジタルからも多く入手していることがうかがえます。

この結果をもとに、中宇治エリアにおける子育ての活動および情報を共有する「ばしょ」として、実在する4つの空間（コミュニティガーデン、シェアキッチン、既存集会所、既存レンタルスペース）と1つのオンライン空間の合計5カ所を手がけ、多世代の市民が気軽に立ち寄ることができる「まちのリビング」として、「つながり」構築の礎となる連携可能な交流空間の創出を試みています。

利用者のターゲットは、これまで積極的なコミュニティ活動への参画の機会が乏しかった若者や子育て世代としますが、これらの層に限定することはありません。また、ここでは、今後の中宇治エリアならびに宇治市内全域における交流空間創出の参考として、中宇治エリア以外の事例も紹介します。



中宇治エリアは子育てに適した環境であると感じていますか？

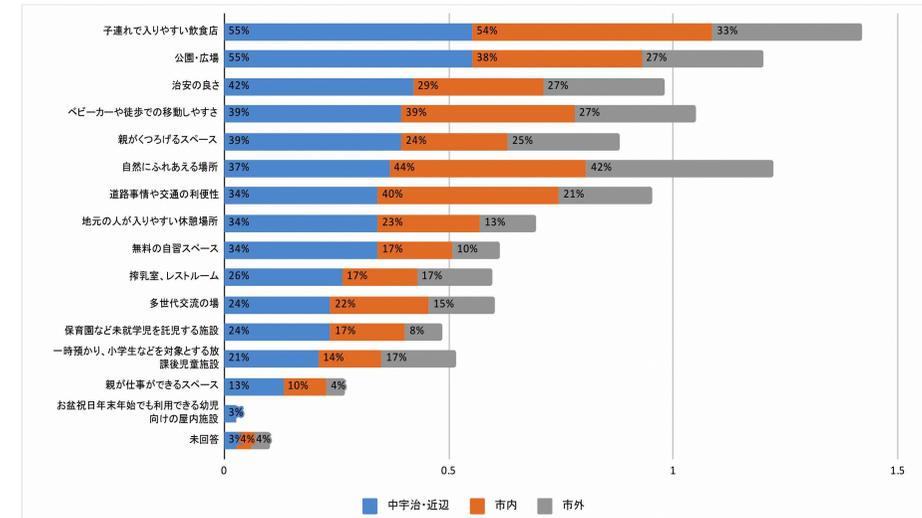


普段、中宇治エリアのどのような場所を利用しますか？（複数回答可）

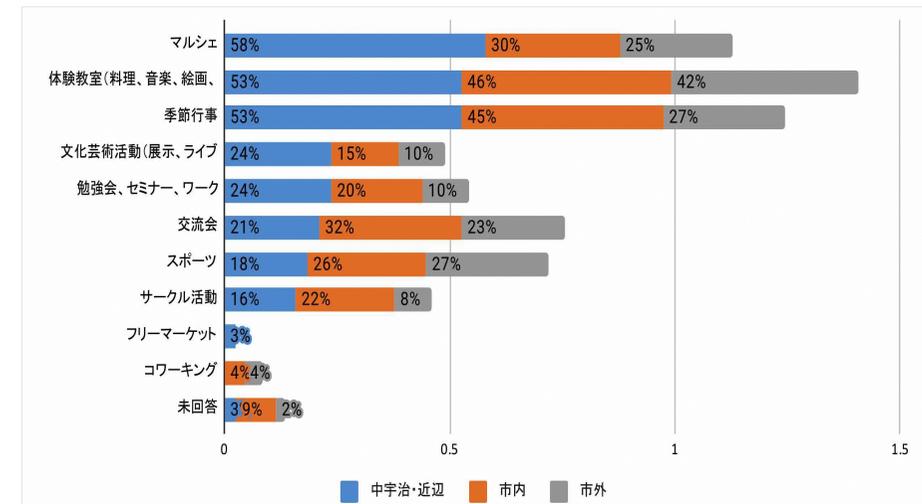
～ 多様な場所とアクティビティ ～

子育て世代が具体的にどのような場所を求めているのかについて質問したところ、中宇治の居住者、市内居住者ともに「子連れで入りやすい飲食店」への要望が多い傾向にあります。中宇治居住者は次いで「公園・広場」「治安の良さ」「ベビーカーや徒歩での移動しやすさ」を求める声が多く、市内居住者は「自然にふれあえる場所」「道路事情や交通の利便性」を求める傾向にあります。また、より具体的な場所のイメージとしては「子どもが遊べる広場や公園」「安全に遊べる街路」「カフェ」「水遊びができる場所」など、子どもが遊べる場所と親がくつろげる場所が求められています。

子育て世代が集まって活動したいプログラムとして、中宇治エリアの居住者、宇治市内の居住者、宇治市外の居住者ともに「体験教室」「季節行事」「マルシェ」「交流会」への高い要望があります。特に、体験教室の需要が高いことが特徴的です。また、このような活動プログラムを含む子育て情報は、「子育て世代の友人」「宇治市の公式LINEやHP」「家族、親戚」から入手するという回答が多くなっています。



中宇治エリアの子育て環境に特に必要だと思うことは何ですか？
(複数回答可)



中宇治エリアに子育て世代が集まって活動できる場所があれば、
どんなことがしたいですか？(複数回答可)

～ 中宇治地域のポテンシャル ～

中宇治地域は、観光地と居住地、来訪者と居住者が混在するという特徴を持っています。また、観光客向けの店舗が多くある一方で、所有者を特定することができる空き家や空き地、中心部や商店街にあってもあまり使われていない集会所、民間のレンタルスペース等があります。

そして、中宇治地域には、子育てや食育、学生による地域連携プロジェクト、マルシェ、ハンドメイド等で活動する数多くのグループが存在します。また、近年では公・民・学の連携によるまちづくりのプラットフォームである一般社団法人アーバンデザインセンター宇治が設立され、様々な活動が実践されています。

中宇治地域は、このような空間やグループを通じて、訪問者と居住者が自然に交流できる場所や子育て世代をはじめ、様々な世代の市民が住みやすい交流空間を新たに創出できる可能性を秘めています。

- ① 宇治橋通集会所 イベント
- ② 宇治橋通集会所 外観
- ③ 中宇治BASE イベント
- ④ 中宇治BASE 外観
- ⑤ 中宇治yorin マルチスペース 「yoriai」
- ⑥ 大阪屋マーケット



画像クレジット

- ① ② 寺川建築設計事務所
- ③ ④ UDCU
- ⑤ ⑥ 宇治観光まちづくり株式会社

2. 「ばしょ」をしつらえる

～ 集会所のつかい方の幅をひろげる ～

あまり利用されていない既存の公立集会所をリノベーションすることで、様々なサークル活動や展覧会等に活用できる場所を整えることができます。若者や子育て世代向けサークル活動をきっかけとした交流、ギャラリー・展示スペースとしての使用をきっかけとした地域住民および観光客の交流を実現することが可能です。

中宇治地域の中でも、最も人通りの多い宇治橋通商店街に面した宇治橋通集会所では、奥の間北側の壁一面に着脱可能な展示用有孔ボードを設置することにより、様々な展示に活用できるような設えをほどこしました。また、通りに面した建具を透明ガラス戸にとりかえることで、内部のアクティビティが見えるようにしました。

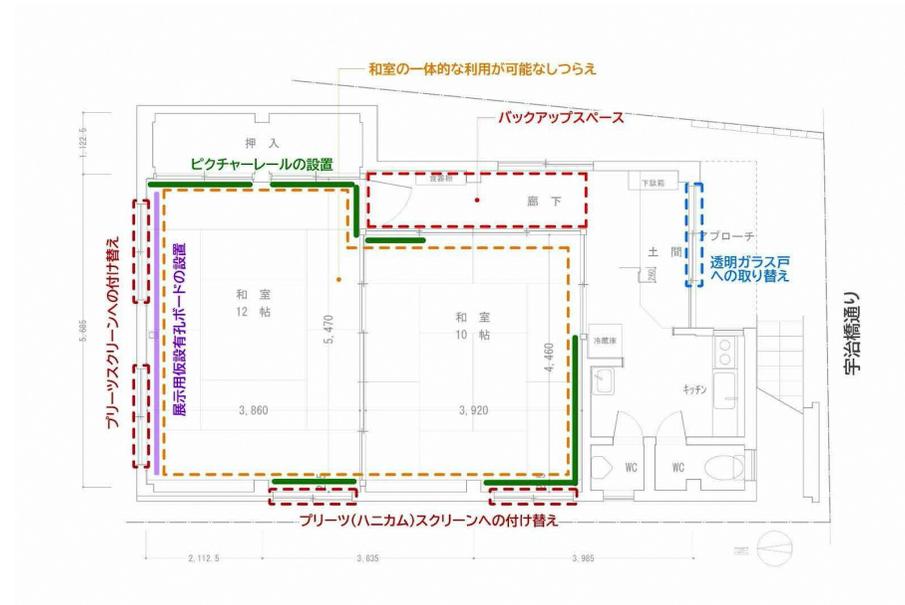
このような設えをほどこしたうえで、2021年12月1日から6日間、京都府主催の障がい者アート展『CONNECT⇄展』の府域展開事業の1会場として活用しました。この展示会の成果と課題を受け、会場としてさらに有効活用するための備品（ピクチャーレール、サインボード等）と内装（カーテン）ならびにプリーツスクリーンの取替え等）の整備を行いました。



画像クレジット

- ① ② 寺川建築設計研究所
- ③ ④ UDCU

～ 集会所のつかい方の幅をひろげる ～



既存の公立集会所（宇治橋通集会所）平面図

使い方の事例

① 地元有志によるアート展覧会

たたみ22帖分の広いスペースを一体利用できます。壁に有孔ボードとビクチャーレール等で作品を展示し、床に大きな作品を広げたり来場者が体験できるワークショップをしつらえることができます。

② 子育てサークルの活動

小さなお子さんや、まだハイハイしかできないような赤ん坊でも、たたみの空間なら安心です。お家ではできないようなことも集会所なら大丈夫です。



①



②

画像クレジット

- ① UDCU
- ② 京都・宇治子育てサークルそよかぜ

～ 空き家を有効に活用する ～

中宇治でも10年ほど前から、通りから奥まったエリアで、築年数を経た空き家が目立ち始めていました。また、相続に伴い、市外に転出した親族が管理する、いわゆる「潜在的空き家」が加速度的に増加しています。

これらの空き家は周辺環境に及ぼす影響はもちろん、防犯、防災上も望ましいものではなく、有効活用されることによって、地元の人々にも、観光に訪れる人々にも、中宇治の魅力をより強く訴求することができます。

その先駆的な役割を果たしている「中宇治 yorin」は、築60年程度の町家と工場をリノベーションし、子育て世代の女性店主2人を含む3店舗とレンタルスペースをすることで、宇治に住む人が身近で働ける場所を提供し、顧客、利用者として多世代の人々が交流するモデルケースとなっています。

また、元酒屋の倉庫をリノベーションした「中宇治BASE」は、多機能ホールなどを持つ複合施設に生まれ変わり、今後、地域のまちづくりセンターとしての機能を担っていくこととなります。

有効活用の事例

①② 空き家のリノベーションによる小規模な複合商業施設

宇治橋通りから細い路地を入った長屋のうち一軒とその裏にあった建具工場を複合施設に。フレンチビストロ、焼き菓子専門店、幼児を持った女性が通しやすいプライベート美容室、レンタルスペースで構成されています。

③④ 空き家のリノベーションによる交流空間

中宇治yorinの路地を抜けた「伍町通り」にあり、築70年酒屋の倉庫を改修することによって、吹き抜け空間を持った多機能ホールに。また、倉庫東側の元店舗部分やバックヤードは、今後、レンタルキッチンなどを備え、イベントなどに利用されます。



①

中宇治yorin before



②

中宇治yorin after



③

中宇治BASE before



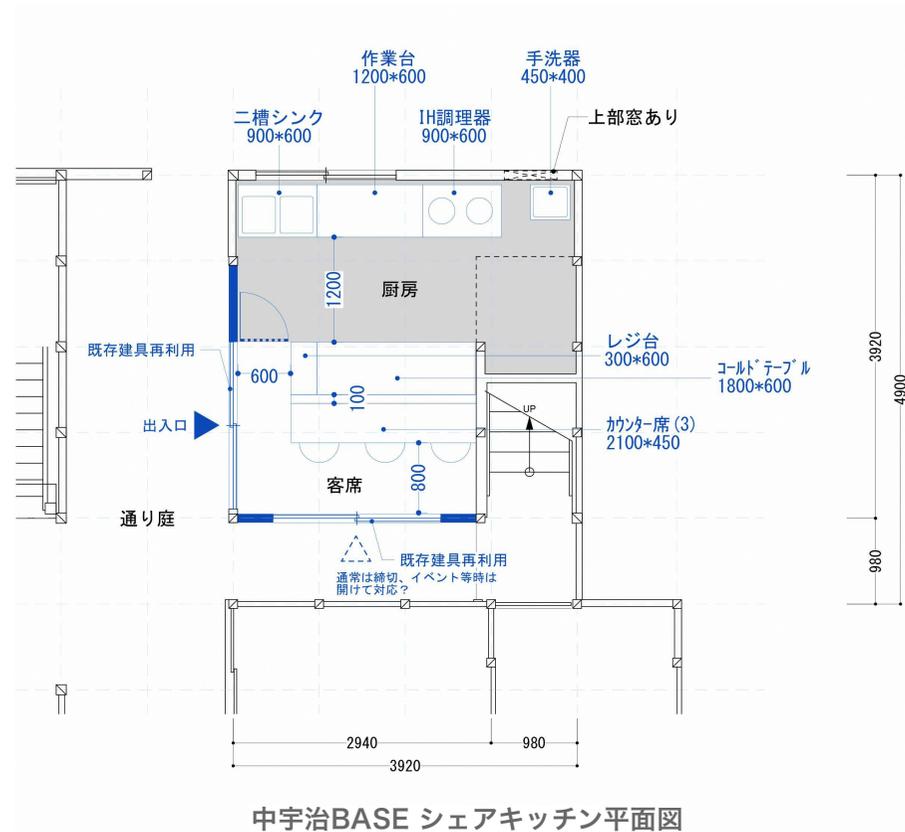
④

中宇治BASE after

画像クレジット

① ② ③ ④ 宇治観光まちづくり株式会社

～ 空き家を有効に活用する ～



シェアキッチンの事例

①② かさでらのまち食堂 (名古屋市)

会員制でプレイヤーを募集し、市民にも開放されています。飲食店が少ないこのエリアでは、日替わりでランチを提供する貴重なスペースとなっています。

③ 中宇治BASE シェアキッチン

営利ではなく趣味の延長で人に料理を振る舞うことに喜びを感じたり、料理教室を主催したりする人たちによって、近年、調理設備を備えた場所をシェアするという形態が注目されてきており、実際に空店舗などの有効活用策として各地で事例が生まれています。



画像クレジット

- ① ② 宮本久美子建築設計研究所
- ③ UDCU

～ 空き地を有効に活用する ～

近年、空き家とともに社会問題化しているのが空き地です。放置された建物がどんどん傷み、近所迷惑な危険家屋になった末、建物取り壊し後に空き地になったようなケースも散見されます。

空き地の多くは未舗装がゆえに雑草だらけになったり、ゴミが投げ捨てられていたりということも... そうなると近所迷惑にとどまらず、まちの景観に支障をきたすとともに、エリア内の土地の有効利用が妨げられることにもなります。空き地が路地奥にあるような場合はさらに深刻です。有効利用したくても建物の新築許可が下りず、放置され続けることになりかねません。

そんな中、建物を建てること以外の空き地有効利用策として注目されているのが、コミュニティガーデンです。コロナ禍でステイ・ホームが推奨されている間も、ホームセンター等で花や野菜の苗木を求めている方はたくさんおられました。未舗装地が増えた現代社会においても、土いじりの潜在的な需要が根強くあると言えるでしょう。

建てられないなら「耕す」という考えのもと、中宇治でも路地奥の空き地を使ったコミュニティガーデンの動きがあります。8区画の小さな菜園づくりを通じて、人と人が交流し、人間関係をも「耕す」ような場所が生まれつつあります。

活用を想定する空き地

- ① 活用を想定している空き地の位置
- ② 表通りから空き地への入り口
- ③ 活用が期待できる井戸
- ④ 建物に囲まれた空き地の状態



画像クレジット

- ① Google
② ③ ④ 寺川建築設計研究所

3. 「きっかけ」をうみだす

～ 集う：サークル活動や展示会、展覧会など～

既存の公立集会所である宇治橋通集会所や民間のレンタルスペース等を、子育て世代のサークル活動や社会実験としての展示会・展覧会で活用することができます。若者・子育て世代向けサークル活動を通じた人的交流、ギャラリー・展示スペースとしての使用を通じた地域住民および来街者の人的交流を目指すことが目的です。

そのためには、当該集会所の運営委員会や民間レンタルスペースの管理者とのコミュニケーションを通じ、ギャラリー(展示会場)としての利用者誘致、若者・子育て世代向けのサークル活動に主眼を置き、集会所等の新たな利用者、利用の仕方を社会実験的に模索することが重要です。

事例 1

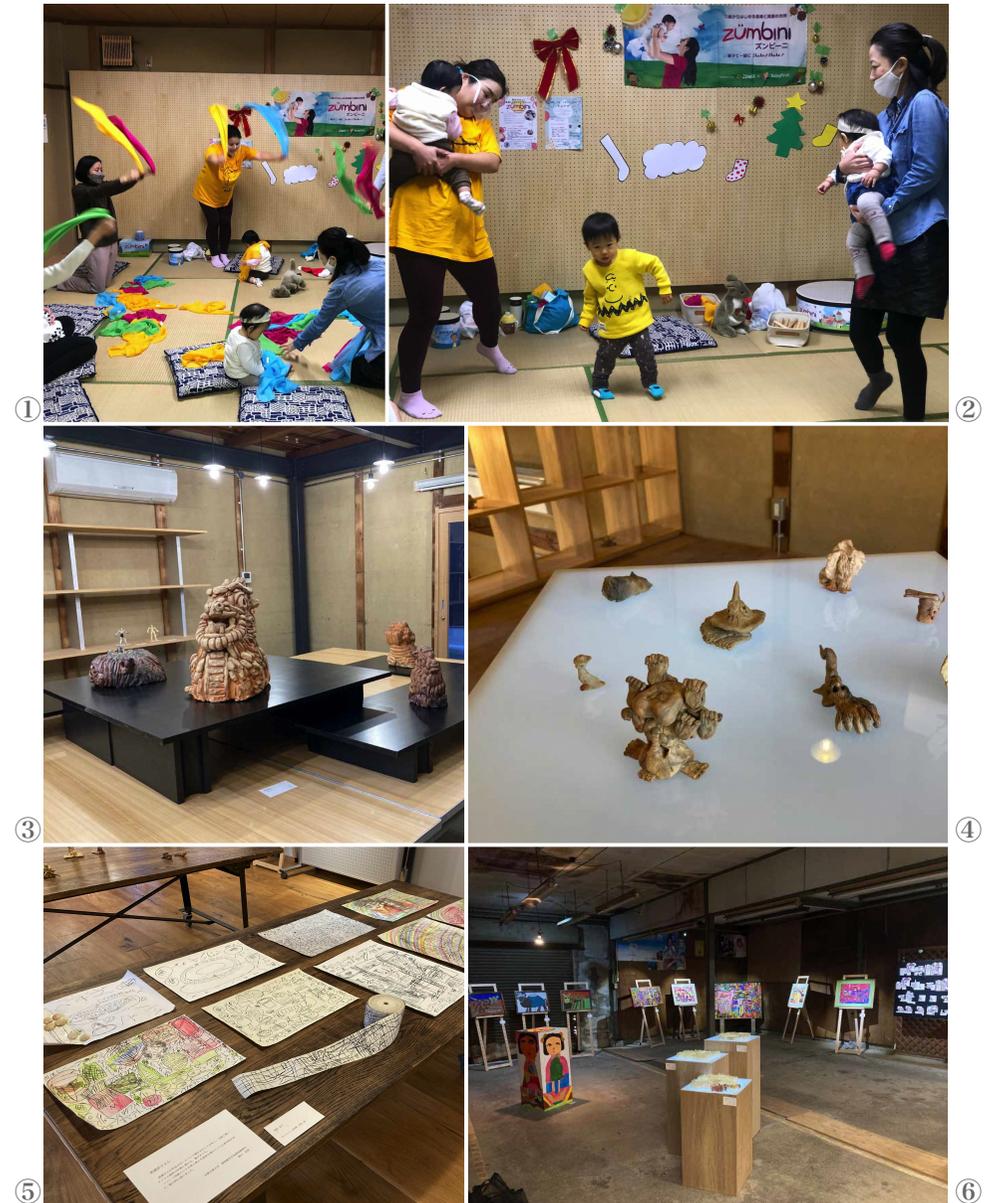
京都・宇治 子育てサークル「そよかぜ」

毎月1回1時間半、宇治橋通集会所で開催。思いやりと、自ら考え学び続ける力をもつ子どもたちが育つ「子育て」を応援できる風土や文化をつくることを目指して活動しています。親子英語リズム遊びとフリートークで構成されています。(写真①②)

事例 2

『CONNECT⇄_展』京都府域展開事業

京都府主催の障がい者アート展の中宇治会場として、宇治橋通集会所、中宇治BASE、大阪屋マーケット、中宇治yorinが活用されました。それぞれの会場の立地や空間的な特徴をいかすことのできる作品選びや展示方法が試行されました。(写真③④⑤⑥)



画像クレジット

- ① ② 京都・宇治 子育てサークル そよかぜ
- ③ ④ ⑤ CONNECT⇄_展
- ⑥ UDCU

事例 3

「はんなりマルシェ宇治」@中宇治BASE

2019年にスタートした宇治のママ作家さんたちが中心となり開催しているハンドメイドマルシェです。子ども服やアクセサリ、バッグ、雑貨やインテリア等が販売されています。2021年度は、中宇治BASEを会場として、合計3回開催されました。(写真①②)

事例 4

「BULK MARKET」@中宇治BASE

2021年11月28日にごみ削減、フードロスがテーマの量り売りマーケットが開催されました。京野菜やコーヒー、お菓子の販売や、占い、クリスマスリース作り、廃木材の無料提供等が行われました。(写真③④)

事例 5

京都文教大学地域連携学生プロジェクトKASANEO

中宇治BASEや中宇治エリアを会場に、古着のオークションや写真撮影会、展示会が開催されました。「高齢者の方から着なくなった服とその服を着て当時の思い出を提供いただき、学生自身の私服と組み合わせて今風にコーディネート」するプロジェクトです。(写真⑤⑥)



画像クレジット

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ UDCU

～ 食す：チャレンジショップ、料理教室 ～

近年、核家族化や共働き世代が増え、子どもの孤食が中宇治エリアでも増えてきています。食卓を家族で囲んで何気ない会話や、料理のこと等について話す機会が減ってきています。また、インスタント食品や冷凍食品、デリバリー等で料理を手軽に食べることができる一方で、共働き等で子どもが親御さんと一緒にいちから料理を作る機会がなかなかとれない傾向にあります。

そのような中でも、中宇治エリアでは、料亭や農家、食育団体がタッグを組んで子どもたちへの食育活動を行っています。それらの活動をさらに広げて活動しやすくなるように、空き家をリノベーションしたシェアキッチンやレンタルスペースを活用することで、料理教室が様々なところで開催できます。料理教室を通して食材のことを学んだり、親子で料理を作る機会を創出します。

この料理教室やチャレンジショップをきっかけとして、若者・子育て世代の交流や生産者・加工者の交流、若者や子育て層の出店気運の醸成をめざします。

事例 1

宇治の青空レストラン～宇治の食育 地産地消促進プロジェクト～

食育と地産地消促進を目指し、宇治市槇島町にある京野菜いのうち農園での旬の野菜収穫体験や、京料理辰巳屋による収穫した野菜の調理、地産地消の特別お弁当を食べる食育の取り組みです。2021年度は夏と冬に2回開催されました。（写真①②③④⑤）



①

②



③



④

⑤

画像クレジット

① ② ③ ④ ⑤ 京料理辰巳屋

～ 食す：チャレンジショップ、料理教室 ～

事例 2

宇治市健康づくり・食育アライアンス うーちゃ学校

宇治市で健康づくりや食育をテーマに活動している加盟団体が講師となり、宇治市在住の親子を対象に実施している体験講座です。この回では、食育をテーマに絵本に登場する料理を実際に作って食べました。令和3年度は全5回開催しました。(写真①②③)

事例 3

宇治市食生活改善推進員協議会「若葉の会」お料理教室

「私達の健康は私達の手で」をスローガンに、市民の方々を対象に公民館等で料理教室を開催しています。生活習慣病予防をテーマに「手作りみそ講習会」「トマトケチャップ作り講習会」や、例年行われる地域のイベントにも参加しています。最近では、立命館宇治高等学校の生徒さんたちを対象に料理教室を開催しました。(写真④⑤⑥)



画像クレジット

- ① ② ③ まちづくりねっと・うじ
④ ⑤ ⑥ 宇治市食生活改善推進員協議会「若葉の会」

～ 耕す：土いじりや野菜、果物づくりなど～

空き地を活用してコミュニティガーデンをつくり、近所利用者同士の付き合いのきっかけづくりや、個人だけでなくグループでの菜耕を目指します。中宇治エリアは一部を除き、高度成長期までに建てられた住居が多いため、自宅に駐車場を持たない家が多いです。そのため空地は月極駐車場になっている場合が多く、加えて、近年では主要道路に面している家屋が解体された場合はコインパーキングになる事例が多くみられます。

そのような中でも少数ではありますが、庭の一部や駐車場に適さない場所で家庭菜園や果樹の栽培などを行っている事例があります。

今後増加してくると思われる家屋解体後の空き地を活用して、コミュニティガーデンなどをつくることで、雑草などの繁茂を抑えて、地域のコミュニケーションを醸成する場所としての役割を果たすことが可能になります。

事例 1

「まちにわ」ワークショップ第3回「ふれあいパークをつくろう！」

2021年11月7日に菟道ふれあいセンターで、宇治市の子どもたちを対象とした花やクローバー、芝生等を植えるワークショップをUDCUの東京大学、慶應義塾大学、奈良女子大学、京都文教大学の学生チームが企画運営を行いました。立命館宇治高等学校の生徒さん、京阪園芸株式会社、菟道小学校や宇治福祉園の先生方のサポートのもと開催されました。（写真①②③）



①

②



③

画像クレジット

① ② ③ UDCU

～ 耕す：土いじりや野菜、果物づくり ～

事例 2

庭の一部を家庭菜園として活用

ひと畝だけやプランターであっても、土の手入れを十分に行えば、相当の収穫が見込めます。また、ある程度の広さがあれば、同時に柑橘系などの果樹を植えたり、花を栽培することもでき、生活に張り潤いが生まれます。

(写真①②)

事例 3

野菜よりも栽培が簡易で、景観的にも優れた植物の栽培（ローゼル他）

野菜作りは灌水の他、害虫対策なども重要になりますが、比較的栽培しやすく、成長過程の緑を楽しめ、また、可愛い花が咲きその後には綺麗な実がなるような植物の栽培も面白いです。ローゼルの実は、ハイビスカスティーの原料になったり、ジャムやシロップなどにも加工でき、収穫後のワークショップなどにも大いに利用できます。その他、ジュンベリーやブルーベリーなども栽培がしやすく、近年はガーデニングの人気とも相まって栽培が盛んです。

(写真③④)



画像クレジット

①② UDCU

③④ 松井まり江 エディブルガーデン・ライフスタイル @ marinsen

4. 「つながり」をはぐくむ

～ 様々なグループと連携する ～

交流空間から、様々なグループが連携できる「つながり」を紡いでいくことを目指します。団体でのサークル活動等はこれまでも行われてきたと思いますが、団体同士が連携して一連の活動として実施することは、中宇治エリアではこれまであまり見られませんでした。

そこで、交流空間を活用することができれば、例えば、子育てのサークルが、コミュニティガーデンで野菜について農家の方に説明を受けながら収穫し、食育団体とともにシェアキッチンで料理して食べる、といった一連の企画として実施することができます。体を動かすことがメインの団体が体操やストレッチ等をひろば等の屋外ですてから、体の栄養となるものを作って食べるという企画も提案できます。

事例では、地域のお店のなかで、生花やインテリア作りの講師や団体を招いて、定期的にワークショップが開催されています。また、学生グループのイベント会場としてレンタルスペースを提供したり、健康づくり団体とNPOが体験講座をしています。そこには各グループ同士の交流が生まれます。

そのためにも、宇治で活動している団体の情報が手に入りやすい、オンライン上のつながりも必要となります。

様々なグループのネットワークと活動

- ① 京都文教大学による商店街連携イベント
- ② 活け花療法「花とこころのサロン」
- ③ 健康づくりや食育の活動をしている「うーちゃ学校」
- ④ ハーバリウム製作のワークショップ
- ⑤ 京都・宇治 子育てサークル「そよかぜ」のイベント広報



画像クレジット

- ① UDCU
- ②③ まちづくりねっと・うじ
- ④ ギフトショップ あおいそら
- ⑤ 京都・宇治 子育てサークルそよかぜ

～ オンラインのネットワークをつくる ～

中宇治エリアには豊富な観光資源が含まれるとともに、茶づな等の公共施設や一定の活性化が進む商店街等もあることから、公・民・学の様々なイベントが多数行われています。しかし、エリア内の若者・子育て世代には、これらのイベントや耳寄りな情報がうまく届いているとは言えず、スマホ等のデジタルデバイスで情報を得られるようにすることが求められます。

情報共有のためのオンライン空間を創出するため、情報の伝搬効果と運営上の持続性が高まるインスタグラム、フェースブック等のSNSを活用していきます。現在、既存の有力SNS発信者を探しています。加えて投稿時のハッシュタグを統一することで、拡散力を強化することも検討しています。また、前出の交流空間、宇治橋通集会所の活用を促進するため、予約状況を常時確認できるWebページを作成し、現在その効果を検証中です。

オンラインネットワークの活用事例

- ① 集会所の利用状況や予約状況を確認できるサイト
- ② 特定の交流空間における活動を情報発信するSNSのサイト
- ③ 特定のグループの活動を情報発信するSNSのサイト

宇治橋通り集会所施設予約状況（実験運用中）

宇治橋通り集会所の利用申し込みは下記管理者までお願いします。

管理者：宇治書店
 電話：0774-21-3391
 住所：宇治市宇治番5
 お問い合わせ時間：平日 10時～19時（土日祝はお休み）

①

udcuji + ≡ <

猫いていきます。
「宇治をつくるひとびと」は下記HPから↓
udcuji.net/

プロフィールを編集

広告ツール インサイト ショップを追加

📍 🏠 +

ハイライト ハイライト 新規

genkihiroba.famisapo ⋮

📷 🎥 📷

②

🏠 🔍 📺 🛍️ 🔄

画像クレジット

- ① ② UDCU
- ③ げんきひろばインスタグラム

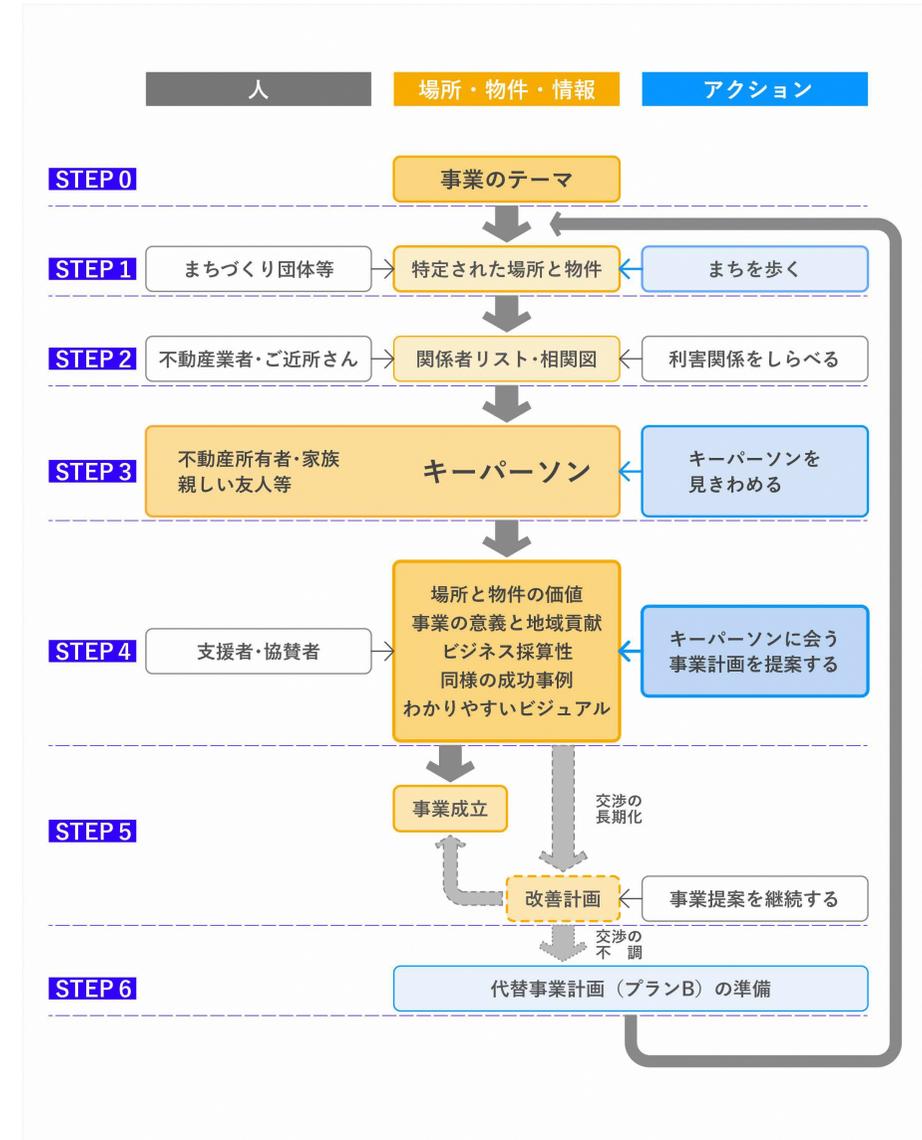
～ プロセスを共有する ～

まちなかには、時間の流れの中で生じた、隙間があります。それらの隙間は、「空き家」や「空き地」という形で存在し、まちづくりの視点からは、未来にむけた次の使われ方を待っていることになります。

ただ、それらの所有者にとっては、過去から引き継いできた財産であり、記憶の場でもあるため、なかなか次のステップに進めないかもしれません。だからこそ、まちづくりのための交流空間を創出する事業にあたっては、じっくりと時間をかけて、隙間を開いてつないでいく必要があります。

そのためのプロセスは以下のようなステップを踏んで進めることが望ましいと考えられます。

- STEP 0 交流空間創出事業の目的とテーマを明確にする
- STEP 1 めざすテーマにマッチする場所と立地をさがす
- STEP 2 場所と物件の利害関係者に関する情報を整理する
- STEP 3 キーパーソンを見極める
- STEP 4 交流空間の具体的な事業提案を行う
- STEP 5 事業計画の改善提案を含め時間をかけて交渉する
- STEP 6 不調におわる可能性があれば事業の代替計画を準備する



交流空間創出のプロセスを示すフローチャート

宇治市 まちのリビング イメージブック

2022年3月

発行：宇治市

編集：一般社団法人 アーバンデザインセンター宇治

UDCU
Urban Design Center Uji
<https://udcuji.net>